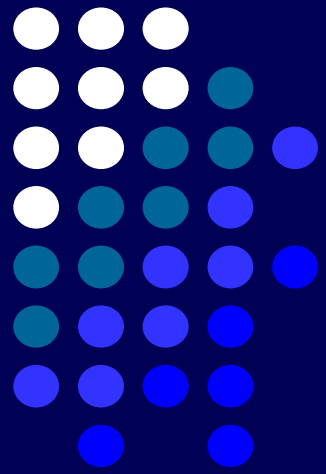
地域における縦と横の連携

兵庫教育大学大学院
特別支援教育専攻 障害科学コース
井澤 信三



いくつかの事例から見えてくること

- **① 本人への継続的な支援**（幼保・小・中学 →）
- **② 保護者への継続的な支援**（幼保・小・中学 →）

- **③ 地域での支援をつなぐためのシステム**
  連携協議会・市町の会議，スケジュールの設定
- **④ 地域での支援をつなぐためのツール**
  個別の教育支援計画，個別の指導計画，
  サポートファイル，中高連携シートなど
- **⑤ 地域での支援をつなぐ人**
  今日，ご参加の先生方など

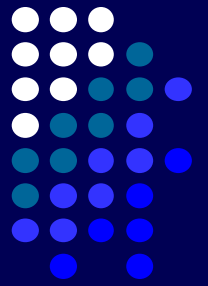
① 本人への継続的な支援

表　中学校における校内(支援)委員会の年間計画の例

構成メンバー：教頭先生，学年主任，生徒指導担当，教育相談担当，学級担任，特別支援教育コーディネーター

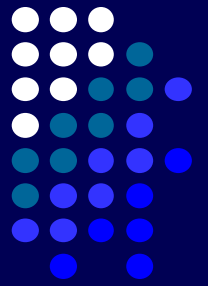
開催スケジュール	主な内容
３月下旬 or4 月上旬	**中高連携会議（ケース情報の引き継ぎ）**
４月　下旬	今年度の校内における特別支援教育の推進についての話し合い
５月　初旬	学年ごとの特別支援対象生徒の実態把握と基本方針の確認①
６月　初旬	中学校学区域における特別支援教育コーディネーター会議①
８月中	事例検討会(含む，個別の指導計画作成)①
８月中	特別支援教育に関する研修会①
１０月　上旬	学年ごとの特別支援対象生徒の実態把握と基本方針の確認②
１１月　下旬	学年ごとの特別支援対象生徒の実態把握と基本方針の確認③
１２月　下旬	事例検討会(含む，個別の指導計画作成)②
１２月　下旬	特別支援教育に関する研修会②
4～12 月	**本人・保護者との高校進学に向けた継続的な話し合い**
1～3 月	**高校進学に向けた入試に関する協議**
２月　中旬	学年ごとの特別支援対象生徒の実態把握と基本方針の確認④
３月　中旬	中学校学区域における特別支援教育コーディネーター会議②
３月　下旬	小中学校連携会議
３月　下旬	今年度の校内における特別支援教育のまとめ
３月　下旬	**高校側の中学校訪問による中高の引き継ぎ会**

中学校区における連携の例 ①



- 例：幼小中連携会議（3月, 5月, 8月）
- 例：研修会の共同開催
- 例：就学・進学児の行動観察
- 例：体験入級
- 例：小学校6年生への中学校進学準備支援
  （例：中学校での授業体験）
- 例：中学校の先生による小学校での授業の実施
- 例：保護者からのサポートブックの作成講座
- 例：個別の教育支援計画の作成会議

中学校区における連携の例 ②



- **中学校区における授業のユニバーサルデザインに関する研究**
  - 相互の授業参観
  - 授業のおける工夫の共有化

- **中学校区における幼・保・小・中の夏期研修会**
  - 過去の状況の確認
  - 支援の連続性の確保

＋ 高等学校
＋ 卒業後機関

教育相談

発達相談

研修支援

研修講座

その他

○ 障害や発達について、気にかかる、困っている、悩んでいること
○ 家庭や学校での生活について
○ 就学や学習についての情報の提供

【手続き等について】
①まず電話をしてください
075－ 621－ 4208

②文書、連絡については、受付の際にお伝えします
（保護者の場合は不要です）

③学校・園からの相談は、アセスメント表の準備、担任・学校コーディネーターは可能な限り「相談」には同席をしてください

保護者 ／ 学校・園 → 電話 → ももやま地域支援センター

日程等の調整 → 相談支援（会議） → 相談内容に応じ → 継続相談 → 巡回教育相談支援
○授業参観
○アセスメント表に基づく相談支援
○保護者相談　等

【保護者】必要に応じて学校等と連絡・調整や同席もあります
【学校等】アセスメント表を持参（保護者の承諾）

必要に応じて → 実施 → 発達検査
保護者の承諾
検査結果を報告

このような検査を実施しています
- WISC－Ⅲ　WAIS－R（知能検査）
- PEP－ R（自閉症心理発達検査）
- AAPEP（青年成人期移行支援検査）
- K－ ABC心理・教育アセスメント
- 新版K式発達検査2001
- ITPA（言語学習能力診断検査）
- フロスティッグ視知覚発達検査
- 新版S－M社会生活能力検査・TOM検査
- DN－CAS認知評価システム 等

ももやま地域支援センター
相談支援チーム
医師、心理・教育
福祉の外部専門家

継続相談 → まとめの相談

講師派遣

○ **講師派遣**
（**障害、発達、特別支援教育に関わる情報提供等**）
- 学校（園）での職員研修会
- PTA、保護者会等の学習会
- その他、少人数の場合でも相談に応じます

○**事例研究会等の助言・アドバイス、資料提供**
○**障害特性に応じた教材、教室環境等の紹介**
○**「１日体験研修」の実施**
（本校の授業を通して、指導方法や学級経営等の研修）

【お手伝いをします】
○ アセスメント表の作成のポイント
○ 自閉症児のための
「サポートブック」の作成
○「個別の教育支援計画」の作成等

思春期のためのライフスキル教育
－指導者のための講座－
11月29日（土）～30日（日）
9：00～17：00
対象：中学校・高等学校の教員（定員30名）
会場：桃山養護学校（参加費無料）

後援：宇治ライオンズクラブ

高校生のためのセミナー　明日へのとびらをひろこう！

ジョブチャレンジセミナー

トークセッション（京都ジョブパーク：安藤ゆかり氏）と実技演習

会場：京都府立鳥羽高等学校
日時：8月7日（木）・8日（金）9：30～15：00
（申し込み締め切り　7月22日　定員15名）

共　催　山城教育局　　京都ジョブパーク
後　援　宇治市教育委員会　八幡市教育委員会
京都LD親の会「たんぽぽ」

校内の相談支援に役立つ連続講座（8回）

ティーチャートレーニング

（高機能自閉症、アスペルガー障害児の支援）
会場：桃山養護学校（18：00～20：00）
7／11　7／25　8／29　9／12　・　26
10／10　・　24　11／14

共　催　山城教育局
後　援　宇治市教育委員会　八幡市教育委員会

第５回「土曜講座」

【宇治会場】　H20年11月8日　10：00～12：00
アセスメントから実際の支援を探る
大六　一志　氏（筑波大学　准教授）
会　場：うじ安心館3F（宇治市役所前）

【八幡会場】　H21年1月24日　10：00～12：00
発達障害と少年非行
定本ゆきこ　氏（京都少年鑑別所　精神科医師）
会　場：八幡文化センター第３会議室

「ももやま地域支援センター」の最新情報は、本校ホームページで紹介しています

地域生活支援相談
放課後の生活、生活支援サービスなどの利用について、地域の生活支援センターと連携して相談します。

教材教具に関する相談と貸出し

学校施設の利用
（事前に申請が必要）
宇治市タイムケア事業
ゆうゆうクラブ
サタデークラブ

在校生の教育相談等
主治医との連携
福祉事業所等との連携

在校生のケースカンファレンスの実施

② 保護者への継続的な支援

小玉(2002)による保護者面談の進め方 11のステップ(一部改変)

Step	内容
1	**来談してくれたことに，感謝の意を表す**
2	**子どもの良いところ，頑張っているところを伝える**
3	**家庭での様子を聞き，子ども・保護者双方の頑張っているところを伝える**
4	**最近，気になっているところ（問題）について話す**
5	**教師として，そのことにどのように取り組んでいるかを話し，協力してほしいことを依頼する**
6	家庭では，どのようにうまくやれているかを聞く
7	これから，どんな目標に向かって，どう支援していくか，話し合う
8	学校で，教師として支援できることを説明する
9	家庭で，家族がどんな支援ができるかをいっしょに考える
10	学校，家庭それぞれが取り組む支援について，確認する
11	「具体的でよい支援策を考えれたこと」「教師として頑張っていこうという意欲が高まったこと」「家庭と協力できたこと」など，感謝の意を表す

保護者支援の長期的プラン

- **保護者の特徴**
- 抱える事情・価値観
- 子どもへの捉え方
- ＋ 本人の自己理解

- **長期プランとは？**
- 目標の設定
- いつ（チャンス＝機会）
- 節目節目
- はやめはやめ
- 何を伝えるか？
- どのように伝えるか？

特別支援における保護者支援プラン・シート

お子さんの名前：

［家族構成］

［保護者理解（家族の特徴、抱える事情、子ども理解等の現在の状態など）］

［保護者支援における当面の目標とスケジュール（機会）、留意点など］

［長期的な目標とそのスケジュール（機会）留意点など］

③ 地域での支援をつなぐためのシステム

- 今日のような「地域における連携会議」

- **PDCAサイクルに基づく会議　※ 部署横断**
- ● 何が課題か？（現状分析）：ひきこもりの課題
- → 実態把握の問題
- → 相談から次につながる場所がない
- → ひきこもりの専門家がいない
- ● 何からどうする？（優先順位）
- ● とりあえずの対処方法のアイディアの創案
- ● 実現性の検討